

## 32. 皮膚科医との連携による皮膚炎対策事例

○元木 貢・佐々木 健  
(アベックス産業(株))

大滝 倫子  
(九段坂病院)

皮膚炎を発症すると多くの場合、患者は皮膚科を受診する。皮膚科医は皮膚炎の治療はするがその原因の追究と対策の助言をすることは稀である。また、衛生害虫の知識を有する皮膚科医は少ない。そこで、皮膚科医と連携して、患者宅の調査を行い、原因究明を試み、その対策を実施した事例を紹介する。

事例1：タヌキによるネコノミ刺咬被害

事例2：トリサシダニによる刺咬被害

事例3・4：ネズミによるイエダニ刺咬被害

事例5：屋内塵のダニ調査

事例6・7：トコジラミによる刺咬被害

事例8・9：ダニ妄想

昆虫等による刺咬症は治療だけで治癒することはない。原因を突き止め、原因となる害虫を駆除することが必要である。皮膚科医から紹介を受け、患者宅の調査を行う。調査は目視のほか、原因が判明しない場合は飽和食塩水浮遊法によるダニの同定は必須である。

原因が判明したら、その駆除を行う。ダニ妄想と思われる依頼があったらダニに詳しい皮膚科医を紹介し、安易に薬剤散布を行わない。PCOと皮膚科医との緊密な連携が必要で、皮膚科医にも刺咬性昆虫やダニを知ってもらうよう啓発活動が望まれる。